

二

時事新報	時事新報社	時事新報廣告料(専室)	時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細の商況物價報告あり其代價遞送料廣告料は左の如し	
			一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一百五十錢〇六箇月前金三百五十錢〇一年前金六百〇〇月間休刊	〇時事新報社より電話ニ郵送スルモノハ右定價ノ外ニ一箇月十三錢ノ
			通算額ヲ由支ク	
			時事新報廣告料(専室)	
			一行五號活字廿四字站 一日限六日迄	一日以上七日以上
			一 行 二 付	十三錢十一錢十錢五厘

血節警界果し
時事新報

止む可らざるか

字等の聲音も聽むる可いとは我輩の毎度報告する所にして之を實行して何の差支もなかる可しと信ずれど世俗の常情として自から異端なきを得ず即ち其言ふ所を聞くに元來政治は極めて俗の仕事にして舉者の眼に於て當局の地位に立て政を行ふには政府の内外は無用と見ゆる物にても實際には自から之を必要とする場合あり爵位官等の如き必ずしも虚威虚飾の爲めのみに非ず當局の地位に立て政を行ふには政府の内方に更なる體面を保つの一事も必要にして即ち爵位官等の止む可らざる所以なりと云ふに在れど我輩の所見は全く之に反するものなり凡そ人の智徳は其品位を表するものにして自から掩はんと欲して掩人可らず之を名けて天罰と云ふ彼の學者發明者もしくは金浦家の如き身に人爲の貴さと有せらず雖も一般の世間にては自から其地位と認めて之を輕んずるものなし即ち自然の天罰と敵するものにして人の品位は必ずしも人爲にあらざるの實を見る可し左れば政府の地位に在るものとても其智徳にして苟も社會の上流に位する程の人物ならんに比人爲の爵位を以て世間を照さずと雖も一般の爲業は必ず其品位を認めて之を敵するにあらざる可し況んや部内の輩に於てをや其人に信服するは必然皆篤に久くる所あらんか誠今ひ爵位の高きに居るも意外一級の爵位を得るは到底難かる可し畢竟今之政客輩が身の現を知らず獨り自から高ぶして一身の上に極まるを許さず獨り人爲を以て天罰の上に位せしめんどすればます——爵位の高きを要するふとなれど苟も智徳相應の程度に於て體面を保たんとならば人爲の體面の爲め虚飾間に無用なりと知る可し又事異然老婆の事に於ても政治家の如き聲を奔走して非常に心身と勞する事ひ是又自から之を爲めて失脚に陥れる所のものにあらず——即ち其居所に至る處にて其膳飲食を喰はばむが如く——其聲修飾をして稱ひ可らずとの説をなさに至るが蓋とも取て其内實を呑むるものに非ず又

○通信省告示第九十三號
本月二十六日ヨリ左ノ郵便局ニ電信取扱チ開キ郵便電信
信局トス
明治二十六年三月二十一日
通信大臣伯爵黒田清隆
國 部 名 著 謂 新
太田郵便局
常陸國久慈郡
太田郵便電信局
大子郵便局
大子郵便電信局
在の布哇公使館まで出迎ヘ伴フテ旅館に入り續いて左
の意味の哀訴文を發したり
○布哇王儲の檄文　英國ヘ留學中の布哇王儲カ
イウラニ公主ガ陳情の爲め合衆國に赴く由は過日の紙
上に掲げしが右は本月一日紐育ニ到着せり其一行は
守役ダヴィス氏(英人)夫妻と外に一二人の女子に過ぎ
ず若港の際は前大藏卿マクファーレン氏及び華盛頓駐
在の布哇公使館まで出迎ヘ伴フテ旅館に入り續いて左
の意味の哀訴文を發したり
廣く米國一般の人民に訴ム　予は今諸君の國に來れ
り身に從ふものとては予と共に大西洋を渡りし服心
誠名に過ぎず聞く所に據れば予の國より來れる委員
は我小國と此國に合併せんるどを請求の爲め久しう
滞在したりと云ふ様等は予として國もなく家もなく
天涯漂泊の身とならじめたれども更に一言の挨拶を
爲さず予は只だ風説によりて之を知るを得たるのみ
今を距ると七十年前耶蘇教國たる米人は我國に耶
蘇教及び交渉を與へんが爲め宣戰の男女を派遣せり
而して彼等は吾々に經典を送附し又吾々をして不國
民となせり故に吾々は米國を愛敬し米國を信任す然
るに是等宣戰師の後裔三名は其祖先の功業を記録せ
ん爲め合併請求の委員となり來りて現に議論に在り
抑も優等を派遣したるは何人なるか彼等が空く過度
すべしと自當せし審法を破るべ合意と與へシは可
能也

見ては之を悉み之を好み其結果甚だ妙ならざる者多
畢竟其人々が智慮の足するか成は正直一偏に過ぎて陰
陽表裡の別を分たず自家の蓄修資澤にまで終始一貫の
主義を推戴さんとするが故に斯る結果も免れざるのみ
なれば此處は何とか工風を運らして他の情を損せず
て自ら患ひるの手段ゐそ肝要なれ言、鬼畜に涉るが如き
くなれども彼の賤業を事とする薦娼妓の輩が客に媚を呈
して高人一樣に愛矯を振舞く其中にも自から一片の
異情を許すの情人なきに非ず其社會にては之を苦海の
憂暗しと唱ふるよしにて他の遊冶郎をして之を知ら
めざるは即ち手管の妙處なりと云ふ此を以て彼に比大
るには非ざれども其趣を云へば政海も亦苦海に異な
らず幾千萬の凡俗と相手にして虚々實々の略を施すは
即ち政客の務にして悲しからざるに泣くみどもあらん
喜ぶ可らざるに笑ふみどもあらん要是他機縁を損せ
ずして自家の人望を博せんとするに在るみとなれば其
苦勞も亦一方ならずして時としては勤むの身の憂暗ら
ざるに掛らざるの工風を勧告するのみ當々たる政客の
俗をして済ましめざるの注意ゐそ肝要なれ故に我輩け
鐵頭徹尾その奢侈費澤を禁ぜんとするものに非ず只、
人目に掛らざるの工風を勧告するのみ當々たる政客の
技倆を以て數ならぬ賤業者の手管だにも若かざる可は

人なるか子は今日只だ少駕なる一人の女子にして味方と持む國民一人とも伴はず前に云ふが如き政治家は總て子に反対するものなれども尚ほ權理の爲めには躊躇せんとして能はず我國民憲訴の聲は耳に聞くが如くにして子をして忍ぶ能はざらしむ思ふに神明は必ず正理に與す米國七千萬の人氏は子の言を聞き其國旗の我に耻辱を與ふるを許すふとなかるべし是れ子が今尚は信して疑はざる所なり云々

公主は或る訪問者に向ひ今度米國に渡りたるは陳情の爲めよりも事る合併請求の爲め滞留中なる委員の進行を見んが爲めなりと云ひしよし

○博覽會敷地に就て 京都に於ける第四回内國勧業博覽會敷地の決定したるに就て同地所有主の意向を窺ふに愈よ實質會の開設せらるゝ曉には新市街地の道路開通は更なり新に資本を下して旅館の新築商店の開設を企つるものも續出し遂には純然たる一市區を成すに至るべく新市街地人民が直接間接に大なる利澤に浴するふと期して俟つべじとて南禪寺、鹿谷、淨土寺、吉田、岡崎聖靈院各町及田中村近傍の人民は何れも市會の議決に對して満足の意を表し地主等も事ら京都市全體の利害に着目し地所買収の際に至るも決して不當の申出を爲さずと密に申合せ居れり尙ほ同敷地の新市街地に決定したるに就ては鴨川以東三條以北なる三十三兩組の地所も大に屢責し從來一反歩平均百圓以外にて賣買せしものが今日にては三百圓位にても賣惜み居る姿なり之にも拘はらず種々手を盡して買廻り居るものあり貧民の巣窟と目指されたりしこと新境仁王門近傍も近頃は追々家屋の改造に取扱り中等社會の人も

○汽船沈没溺死七十人 本月十七日午後北海道
廳にて其筋へ達したる電報は左の如し
函館北洋汽船會社汽船江榮丸は去る十四日午後一時
小樽港出航宗谷利尻に向け航海上十五日午前一時
尻近海にて沈没し乗組人七十二名の中二名の外皆溺
死せりとの報あり尙ほ取調中なり

○東南部アラスカの土人及其風俗

(前號の續)

阿部敬介

北冰洋に於ける米國の捕鯨業 今より七八十年前まで
は極熱の地を除くの外地球上鯨族を産せるの海なく
殊に西半球に於てはグリーンランドの東西南海及ハドソ
ン灣北洋クエスカ近海、チリ海岸、オコック海、日
本海黄海を以て重なる捕鯨場と爲し東半球に於ては露
國の最北端ノアゼレブヲより遠く北端に向てスピツ
ベルゲン島アイスランド近海を以て重なる漁場と爲す
又アフリカ南端喜望峰邊より南水洋に至るの間其漁場
と試み六十年前の頃に於ては各國の冒險者は相競て此
業に從事せり然れども此民族は他の海魚水獸の如く其
繁殖多からざれば年々の生育は捕獲の高を償ふ能はざ
ると本此等の民族が敵手を避けて遠く航海仔細はるか
上に難陥居間地として一時有名なりしグリーンランドす
る洋中に移轉せしとにより今日に至りては東半球の捕鯨
業は僅にオコック海、日本海と除くの外其跡を認むる
カ近海は今に至るも依然として富有なる庶民の名を
保つり比カラスカ元老の名義にて居る